

第8回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

○日時：平成30年11月21日(水)11:45～12:45

○場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ：「労働人口減少とAI、量子コンピュータが担う役割」

○招へい者：佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ 代表取締役会長

最首 英裕 株式会社グルーヴノーツ 代表取締役社長

○出席者：平井国務大臣、三輪 CIO、幸田内閣府審議官、住田知財事務局長

三角審議官(IT)、黒田審議官(科技)、堀内参事官(科技)、

行田参事官(宇宙)、奥田参事官(IT)

寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 最首社長及び佐々木会長からの説明

株式会社グルーヴノーツは、プログラミングを必要としない機械学習サービス「マゼランブロックス(MAGELLAN BLOCKS)」という事業を展開している。すでに2500以上のユーザを擁しており、国内でも利用者数の多い機械学習サービスとなっている。また、子供にテクノロジーの楽しさを教えるためのテクノロジー教室「テックパーク」という事業を実施している。

マゼランブロックスについては、来店客数や需要の正確な予測を実現することで、従業員数の最適配分や、売れる商品の仕入れ、新規出店の可否判断等に活用されている。さらに、雇用主と雇用者をマッチング(時間帯、曜日、仕事内容、得意分野)することにより、希望の時間で働けるようにシフトの最適化という問題の解決を計ることで、働き方の抜本的な改革にも取り組んでいる。

テックパークは、子供たちが遊びの中で自然とテクノロジーの使い方を身につけていく新しい形の学びの場を提供するために始めた事業である。きっかけは、自分の子供にテクノロジーの面白さを教えるための時間と場所がなかったことにある。

子育ての問題については、国、行政に頼んで待つより、実は企業がそのストレスを吸収するのが早いのではないかという発想でやっている。テックパークは会員制のアフタースクールであり、会員数は120名である。当社のスタッフが、子どもたちの個性に合わせて個別に対応している。今年8月8日にマレーシアのマハティール首相も視察に訪れ、マレーシアでも実施して欲しいとの要請があった。

3. 主なやりとり

マゼランブロックスにおいてはいずれの取組も、機械学習(AI)や量子コンピュータ等の専門的な知識を理解するのではなく、これを使うと何ができるのかを考えていただくことが重要。仕組は研究者によって論文で公開されており誰でも使う事ができるため、その知見をいかにソフトウェアやサービスとして使いやすい形にするかに取り組んでいかなければならないとの意見があった。

テックパークにおいては発達障害の子どもでも、プログラミングのセンスはあるが学校になじめ

ないだけの子どもがかなりいる。そういった子に対しスタッフがサポートしながら個性を伸ばす取組をすることで、自分は駄目な子じゃないんだ、と気づいてもらい、心が軽くなるような支援を行うことが必要との意見があった。

生きたITを教えるためにパソコンを扱えるための最低限の事(ローマ字等)は必要だが、大切なのは自分が本当にやりたいことは何かを考え纏めさせることであり、ゲームを作ることなどが目的ではない。考えるにあたって子どもっぽくない事が重要であるとの意見があった。

AIで保育士の働く条件のマッチングも行っている事例等も踏まえればAIで既存の仕事がなくなることやを憂慮するのではなく、AIで人が足りない分野をどのように解決するかという積極的な活用を考えるべきという意見があった。

日本は人口減少により国内での需要は減るかも知れないが、これからはAIで何をやるのかを考えた上で、世界を相手にしなければならない、絶対にはまる文化圏はあるとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)